新板

花探匁拾語

二

へ13
3035
2

門へ13
3035
巻 2

昭和九年
七月二五日
購求

斐陀匠物語巻之二

㊀たけ志で

さゝら武藏國荏原郡ふ竹芝の山人とのふ者あり。うゐまつきみゆびらゝ光らたるゆさうつ〜かり久まで。かまゞ姿をあむる人のためのたゝこのかをよしとゐめるゞ。あゝひとゐりて山人とゝよぶ者あゝ。おゝ。ちゝ。ぐく顔吉とぞよびゝ。ゝ久る。ゆゝ〜八十五歳斗ゆてぞ。ゐりゝる。のゆゝ〜よゝ。ゐる人の。けゐづまよりてゝ。ゝゝよ家居志めてゝとゝなひゝる。其人の末ゐりゝ久まで。山里ゐゞゝ。調度ちゞゞも音のゐゞりとゞめてみゆびゝる物ゞりゝ。ゝくゝゝゝ。ゝ久の。ひゝゝゝ。ゆゝ寶ゝゝくゐりゝ久まで。ゝるゆゞゝゐゝゝ。ゝゝ時よゝゝ。ふゝゐゞゝゝゝよ居せ。ゝゝゝて久るゝ。ゝゝゝゝゝゝゝて讀得がゝゝ巻ゝゝゝゝゝゝゝ

山人を見しる者も男女をいとゞ想をかけざるはなかりけるとぞ其比国内
廣岡の長者と云者あり。心ひがみしる侍人ゆへにのつとりるゞけ山人を相ひ
るゆへ。いとゞ兄弟のかゝりひやんと度〳〵みあどをおろかなるまでにはやく
返りごとゞふせざりけるまでいろふもしてゆ我物よやんとおもひてよきつゆで
ちぎり待ゐるうりる春のひ向ゞ岡とゝいつる所の花咲ぬとて人〳〵遠近を
いたきをこまつどひて終日あそびくらしける中よ山人も母をいざなひて高き
岡迄よ纏うちまきてちがめゐるうりる。廣岡の長者もけてうりよ
幕うち張きて酒のこたのしみゐるゞ山人ゞ母をつまとて寄ふ来るよ
を見て酔よ舞ゞて走り来くまゆゝちゆ盃の上よのぼり山人ゞ手をとらへ
てつまと度〳〵消息してこゝろざしたはげつるを情なき山人ふゝとらひて
ひしとまとゝ抱れかゝりけまゞ母を離きあて山人よめくゞもしてくゝく寄を

ふちさゝんとまを生ゞ廣岡立あゞりて母をつきのけ山人を脇よたゝみて
おのゞ幕のうちへひきつれ行んとまを母ハおきあゞりてこは狼藉あゝといひて
あゞをつくを足ゆてくふこゝゞきを付さりぎよりどさえあどハ微塵よあ
てゝ飛ちりぬ母を正氣をうしなひてちうぶゝふ倒れく起もあゞらざ廣岡
山人をとらへて引ゆうんとまをあゆふき寄ひゞさゝうあり。かゝ所よ花の樹陰よ
頻かゞりる男の立居るゞをゝゆと出て廣岡ゞき〳〵脇とりてゆんどゝ
うゝさせく三間ばかり投つけつ山人ハうわゝくて母ゞゆとふよやて介抱されゝ
ゞ廣岡起あゞりてかの男よとびかゝるをひつとゝて大地よあげつけ幕串
を引ぬきてつゞけうちふ打〳〵ゞ強氣の廣岡もおえくとありて倒れてな。
かの男仁王ゞちよ立ゐて山人よむりひて母は前を負て。とく家を逃ゆと
いふよ山人ハ心ゆうまをとく母を背よおひて岡をゆりて逃ゆきる廣岡ゞ

たけだのの
いく母を誘ひて
出るを
とりて者
根相ふまで
ひき伸ば
しも
きれぎで
男出て
母子を救ひ
賞罰をあやまらず

下部ども六七人かの男をゆらじと必ずまくを幕串をとつて縦横に
うつてまた生ずよりつく者もさらふあく皆ちりぐにぞ逃うせるかの
男廣岡がゆくるるぞるよりてかくるやうは恥見せんずとしいひさ多帯
ときあひきたきて衣をぞ流さまあげてうち笑ふつ。いづくともまぐ
帰り行る。廣岡は赤ちぐうゆて卧居くるを下部ら立かつさ多ぐ介抱し
ゐまぐ。ゆくよ息は生ぐれども。あらはぐらあまでけまつふく汚りなん
ハ人ひろくとて下部ら衣をぬぎて。うちきせゐまで。猶寒しとしんぐせんらく
あくてあうあひくる毛氈をとりて頭よりおきせて帯ふくるくくひき
むさぐ。廣岡よろくとたあぐりて赤裸あら下部ら肩ふか。くあまを行
さ多さあぐう繪ふかきくる達磨大師の醉まてるぞとくあまでこをを
見る物手ぬくきて笑ひろうとまよくあるいよくねくき事よ思ひて計報ひ

せんとぞ思ひくもちゐるさて不思議ハ松光と少めよあづまの方へと下アま
ゐるよ。相模国ちもるぬあ日暮ぬまで。夜どり求めく夜をあらくく居くるよ。
思ふの中ふおびくぐまく神ありひぐきて持参りゐる飄おのまくく窓を生く
花ゆくくと見くるよ。驚きて。桃をあげくかの飄をそるみあるをあ手内ど云
まて松光をおこてそこうとゆくびを聞くて見まで。あとかくもちゐ計飄
くくちひてば告身よいちゐる紫あくんもたうがくくと家あるぐちを將
おこて家のあぐりあとさげくゆくもまで。ゐまを見えぬさ
と生盗人のもちぐ行ぐき物よあくぐぎ。まさくく巻中よ計飄おのまとを出
くると見くハゆくハ僊人の告ゆひつる生て計飄をりくくゆくまるくの計
あくうゆ住ゆよあくんとて夜の明るを待て計ゐどりを立生ぬてを
聞及びくぐ武蔵野とうやたてもまを大野まく。ゆくく萩のをたらく生て行さま

を見くだせかの茅ヶ見つる鄙の事をさてとぶとえつまで武義一国のうち
を尋ちゐんゆゑ大分有所去まぎる事あらじ汝ハ左の道をゆきて尋ぬ
べし吾ハ右の道をゆきて行べし石瀧とゆつるあり茅屋の某とてまろる
人あり其ゆきて相あふべしとゆづ松先例のうゑづきて立別まゆきぬ
墨縄ハひとりかの茅ヶ花をおいつけつゝ道ある方をゆきゆく行る事流まま
あるゆゑ出ぬ汁流まゆゑひて行見るゆゑ柴橋ちつゝたゆゑ行るまゆ人
鉤してゆくゆゑ。をゆゑ。をゆゑとあゆゑの岸ゆたてるも見まてゆくゆく
立ゆて四海を池とゆ萬民を吳とゆまとゆゑ何とゆゑ口ゆきみゆまゆゑ。ゆの
つゆき人墨縄ゆゑをふりゆゑてゆゑる。墨縄ゆ人を見まゆ十五六の美ゆ
年ゆゑ。顔の白ひたゆゑひゆゑ女ゆゑ見まゆゑきまゆゑゆゑゆゑゆゑん
見ゆゑゆゑ人のゆゑゆゑまゆゑでよゆゑ思ひゆゑゆゑまゆゑ。かの仙界ゆて谷よりゆゑし

いまゆゑまゆゑ人よたゆゑきまゆゑ女人いひゆゑひゆゑゆゑハ法身ハ棺人ゆゑいゆゑくゆゑをまゆゑて
ゆゑ女ゆゑゆゑゆゑゆゑ墨縄まゆゑゆゑてゆゑの身ハ花彈の国ゆる五ゆてゆゑ。ゆの
武義の国ゆゑ。ゆゑゆゑゆゑゆゑ

母君の畳のわどよりいづくへ行せぬひゝふり見くさせぬさぢちくまおしくりは
尋ひひつまどゝつま出行方あくるくさ人もあゝ君ハゆゝ出行さきをあくせ
ぬふゆゝくいふよ少年大よおゝろつきて母人あくるくさぬよ鄰の家に到りゆふ
ふゝくよつまふ告ぬまでハ出行ぬまざまゝておの生外よ生くるよいゝで家を生
生ゆゝぐきさるふてもゆちゝくざる事よゝて頭うちかくむけてくゝてゝ墨
縄さてくふゝくくきあをゝ巫さうゆゆのかふ見ゝゆくさるふ出家よ人ゆく
見さてゝ出。おの生物のやくまくつぐきゝ生ゆさゆねど出力ゝありさくゝもく
母君の出ゆくゝ尋ねるゝくくゝ少年大よよゝとびてくゝ生くくものふ
物くふくゝて墨縄ゝ足あくゝさくさものゝの上よいざちふ墨縄ゝ見まハセ
ゝくくゝ家田つくるかくゝ手ゝ酒をもつくくりて賣ひさくくと見さくくゝやの
あちくくゝよ大ちる桶ちゝくあまくくちくくゝ我ゝくくるかくゝくくゝ

さゝきかゝくゝ酒いくくゝ瓶ちゝくゝ出まくるあくゝくてありよく見生バおのれゝ
失くる瓢かのつゝの上よつりてあくりゝ抜ちくくゝ出ゝくくく

ゆきづつ君よ天くりなんとゝめつる物ゆゑゆゝしき大事とあつて疱つけで
たゝらとあつぬゝ落ち出物ちりのぞり世よねけ出ぬふぎき吉瑞あるべく
存ゆゝしだ少年うちあそびてさゝらばよき祥よおそゆくとおかゝるひをる
わど傳の家あるべさ入きてさ主の母君ハひろの代大きなる男の
せよおひて北をさゝてさ主行ゝるを傳の村あるおの草かりあるく
たゝゝゝ見ゝゝと今のほど来りて詐りてゆとりふさてはそやつ盗
人あるべしおひうけてとゝくてんゝて心ゝるふだりよせき立てさゝるべ
時よ日ゝ主ぬ主で松とゝつゝねて墨縄もとゝゝ次年母ひき
そひて家を出て萩さゝきの中をつけけく五里あまり行ゝれども新
ぶよ見つけゝるなあ少年ゝをあげて位ことかぎりあ推ゝ来る
松も惜ゝゝねる主で今ハせんかゝあ先立帰りて夜をあらゝて後

さゞゝのゝ主ゞゝゝゞ主月ゝあ主ゝあゝ主ぬゝ主ぬ主ぬ主ぬ

見せかくし。ちかくさゝめく手をうごかし。聞きとがめ。かの男心得ぬさまやつ
物いゝぬる唖ちかぐし。何なりとも思ふ事つまがくしといひつゝかの包を
おろ〳〵ちらとみひぢ手かけく酒のこをり松光包のうちまきりよりゆゝく
て手すりゆゝくるよかの男酒よ酔ひぬるあゝかゝらうちぶして眠るさま
あるひぐちづつみ側よりて取そこらかの包よ手をかけく我方へ引寄ん
とするよ此男こく目をさまして此かゝゆめみも此つゝを盗ゐんとする
みやけつゝその内を天の下よちゝぶ物ちき器ゆゝ天人仙人ゆゝぎれど
用る方ちゝ重寶ちり汝此包ゆゝをかくるを一定盗人ちゝぐ〳〵たゝさく
汝らゝぬをとゝくるべきやはとえも笑ひつゝみかの包を脊よおひて思ひ
さゝよ罵ちりつゝ門を出くぞひゆゝる松光かまぐ仙人のりつぐき寶ちり
とのひゝくるを聞くいよく我尋ゆる斷ちぐゝと思ひれば去りよつきて。

ひそこゆ追ゆくかの男八心もつうぎ小歌こゝひつゆくを後ようむざく
首をぢをとゝくゝゆゝぐかの男手をふりあげくこゝろざるちぎられど。
松光手をたゝかつかの男松光よとびかゝらんとせゝぶよくく大事のおあり
ゝん。かの包を脊ちりおろ〳〵困ある不よさ〳〵蛋ゝ勝ちゝ棒をとつてむく
かゝる松光も同ゝく棒をゆゝくちぐゝ戰ひゝがたゝひよたゝきつゝこゝゆきつ
ゝて相ゝのゆひくよるちりよつゝゆる時かの男棒をあげて去ぐゝ待せ
ゆゝやきべき事ありゝゆゝぐ松光も棒をとゝぶて為ゝるよかの男大きよ
息をつきくつゝ幼き時より棒をとつく大とくをいくぐちきゝて。
手がゝをちきて事ゝびくちゝぐ東四よおいてハ吾よまきるゝぐき棒つゝひハ
あゝゝゝ自慢ゝてありゝよ光陰の棒のゝゆゝをきくつきて少ゝぐあゝ
天晴ちるたゝゝちきゝゝ今ハ此名を名のりぬく甚上ゆくハそれゝゝ

松光
ひさごを
奪ハんとて
途をあくみ
包をおひて
男ハ丹
生あひ
包を
奪ハん
とて
戦ふ
供養塔

名をあらゝやつゞゝとまゝゝゝく姿をさゝあちてのゝ松光仙ゝおゝゝく
ゝゝゝゝゝ口をゝゝゝゝねゞまゝりゐるゝかの男ゝのゝかゝぬハゝ子細をゝ
ゝゝゝゝゝかけゝくゝゝとおぼさるゝ一品大切の物ゝゝゝ見せゝゝんと
ゝゝゝゝゝ立ゝかの包を手より取あげゝゝ松光ゝ前よりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
見ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とのあひだに。あをどーとぶんぶんぶぎくとの。ひく引つまり行くさてーあまくくて。
棟門大なる家よりくらりぬさらまん廣間の長者ぐさてころありろる松光ちを
小部屋よりまおきて。かの男ハ奥の方へ行ぬ。まぐーありて奥の方ちきりよ
物さつぐーろまぐ松光ひそろ丹入くて見まぐ。五十あまりある姫をとくて
あるじ廣間の長者怒りのくちくをり。かくよ隠まて。空けぐ長者ぐ云く
おのまを寒許おびきよせーハさきく丹もかくりくる姫くつま山人ぐ客色
ままよしーぶくくを人をもて甚よーしひのひおろりつまぐふつよいくぐよせば。
ちまてよりて。おのまをかくよびさを。てく山人を我よあくよーさぐぐと
のひきろまぐ。弟引せざるさてあくくまに吋上のあとのまぐくもち物丹
命をーろぐーいり丹返答せよと。彩をあげていのぐ姫泣ちづくくを顔を
あげくさしく無慙ちるちをの者うるる我ぐハ農人の家よ生まれぐまろ

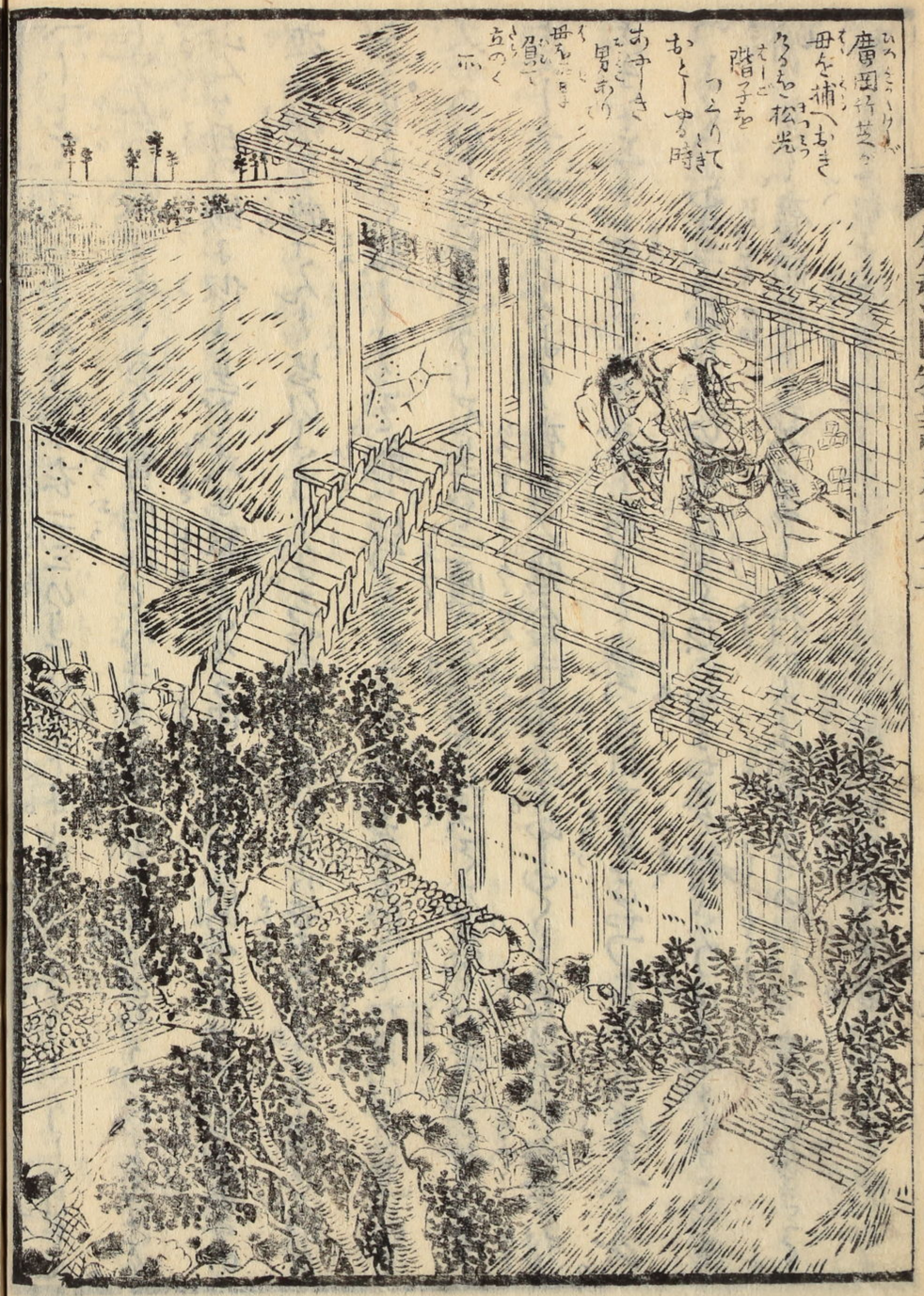
姓をいくぐ。泣をる類ひあをあーぐさ。ちを侍をあぐちよ。横さるあるあをと
見せんとさるる母ぐ命をとくぶとまに我よち思ふまるちさもーしのぐ。
廣間大よりりてよしくさくぶらまめ見せてん。こをつのとのぐくく樓丹
おあおけとらくぐ下人笠手をとりく姫をつまく階ちまをのぐりかひあ
を柱よくりあるくひとくく樓を下りぬ樓ぐは姫ぐ声あく泣のくちりく
止ぐ。廣間下男を呼くひるハかまくるくみふくぐ。明日にもちあくぐ
をまくく山人をとよ得させんとやひもせんのーいよく今日の物くはり
ぶ角ーひよ弟引ぐハあをの夜を前ある川よ沈めてんくのふ松光ちち
笠よりさても不當のやつりかいる丹姫ぐ命助けぐやと思ひるれど
せんさぐあくまぐのとの所よ強ぐをり道よりとあひくー男膳を持まて
松光ぐ前よまをあ。かくりの男よさくやきいひるるはかの姫をさかくー駿めん

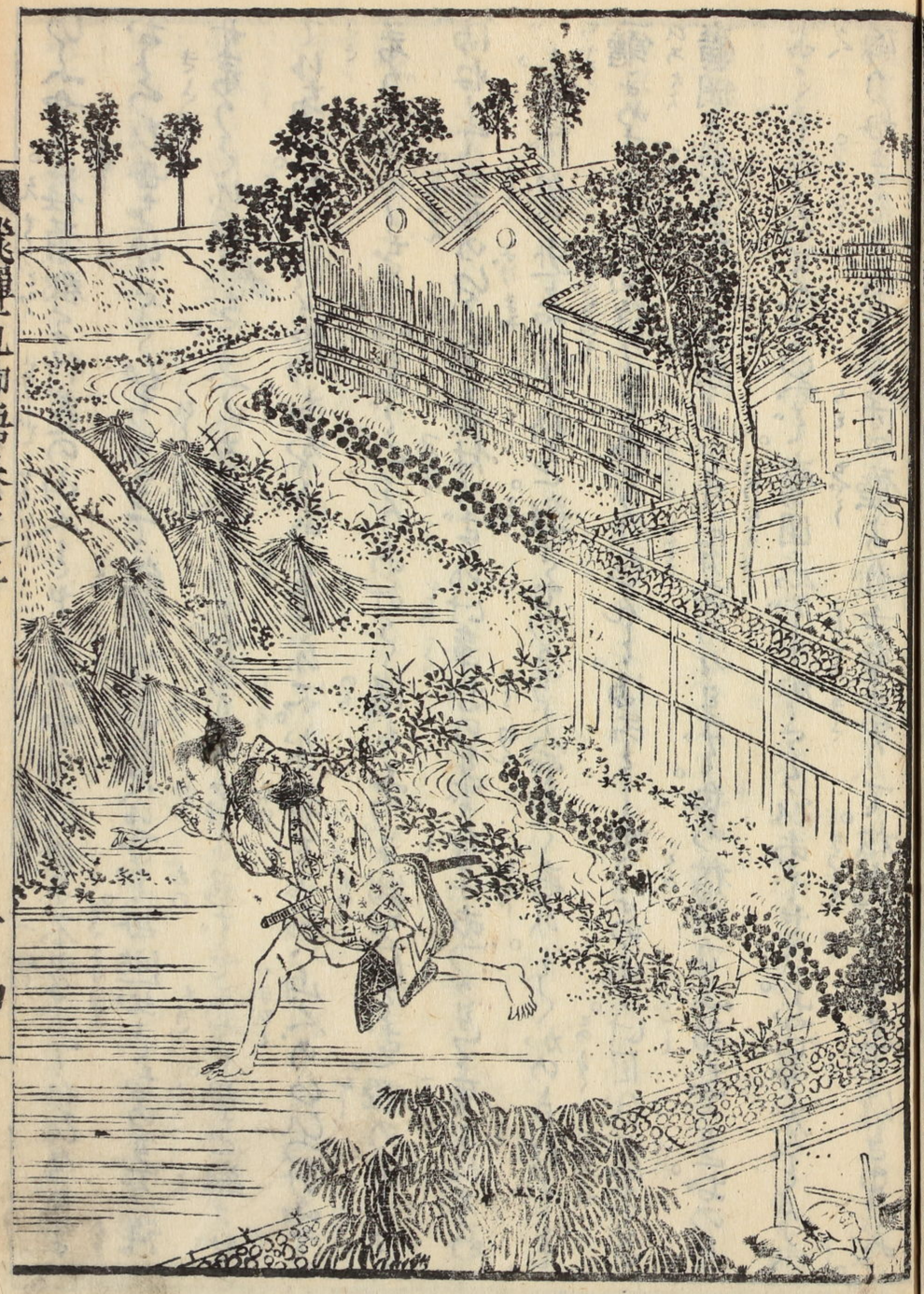
とて、つぼまつ大壺をさく用意せよとて、ひつけらるつるまで、あまひのありさま
ゆくハ大壺も不用よあるぬとの仰ふ松光飯まくくめをまりてみかくまの
あくりを伺つゆ。あるじハ寝所よ入くゆ。ねどあく男女ども物どる
とまくくめて各部屋よ入くゆ。ふゆ松光ねもやくで一時だうををぐし
くるよ鐘の撞ゆ。ゆくハ子の時あるじ。みな人よくねりくるゆ。家のうち
ちづゆくく庭のあくうよ出の撞のこさあり。ちづくゆ忍び生くくゆやを
とほりて奥の方よ行よ男女とあよくいねていびきの撞のこさ。ちさ
ぬと階子よ足をかくるゆ。女の撞て盗人よくいまよ松光驚くひちづを
とあくく起くよふ。ちゆ。かの女の撞て盗人いまをあくぐ我男よ
くりちより出くとのひけ。大あるいびきをかくゆぞさてハねざくあくく
さとうて又階子よかくうておくをざるやくゆづくひて上りくねざくくて

物のおやゆ見くぐて松光窓の戸を明つゆ。ねまちの月のひくうさくゆ入て
をちくあぐやうゆ見面。姫おどろきくふくひ生ぐ。松光背をあでさまり
て手よくくうたる縄をとく。姫不審よ思て居めりをゆ。松光包よく
黒漆ぬつくゆる管を出て徒あくくせく例のさくごとあくて窓よりさく
おくく姫ゆ手をとりて。たくどのの方よ。ゆ。ゆ。ゆ

あり来るを見あたりぬやあるを盗人ことゝて。めろをよびつとゝ
移をしるを見で家の内のものこと起出きて。とよこさつゞ廣國盗人を
とゝ人を縄をて。縄をとりよせて松光をきゝかみくゝと
あげつ嫗が移もぬハ石蜜ありとて。慢あり見る。嫗あぐさてち
こゝつゞ逃て。ありけるありとて。いよく松光をつよくうちをつ。あやつを
ひきの出るハ何者ぞゝいふきの溺器をもち来る男のつを来るあり
とゝいだいよく怒りて。かの男をもとゝく責むちうつ事大方あぐさ
やせめとゝども。松光のとより物いを出ねぐ。たぐさゝうむきくをを
あやつかくだゝうせめとゝども一言をぐみ答ざるハおそろきやつあるこやつ
嫌人あゝん出を持来りけるかをとをあぐ。ひゝき見よとゝいだ男ども
松光ぐかをとをとり出来りて。廣國が前よりあく。こを出ぬをこつるあるある

ゝとて。おけ出を入を衣二三の出ゝるを下ゝぐ。今きうゝうゝと見え
しる女の頭の出ゝくあり。廣國おどろきく。傾ゝめ火をちゝづけて出ぐ。
山人ゝ母の頭ハ似ゝ出ぐ。大ハ絶ちきる中ハ出ぬ。せぐつ出あをの
夜を嫗を殺さんと出ぬゝうゝよ。ちやつゞとろせゝハ幸あゝ。さる出ぬいう
ある事出く殺ゝるぞ。軀ハいづ出ぬさてゝるぞとゝく。松光いゝくせざねぐ
又かのかをごをさぐゝ入出ぐ。一通の文あり。讀て入出ぐ。叶者亞ちり出
おろゝてあり入ろより廣國又怨念きざゝて。ゆくゝ笑ひて。叶文を引
さきさてゝよきてうぐゝあゝとよろこびて。先こやつをとり逃さぐゝぐ。
つよくうちぎておけゝいひつけく。夜の明るをぐ待ゝうる。わどもく夜も
明々出ぐ。廣國岩ハもつまゝく行かよふ國の寺の目代がゆくゝ出まく。
ゆの出ぐ家ハ凶事いぐきてゝゝいだ。目代何事ぞと宜ぐ。廣國ぐ

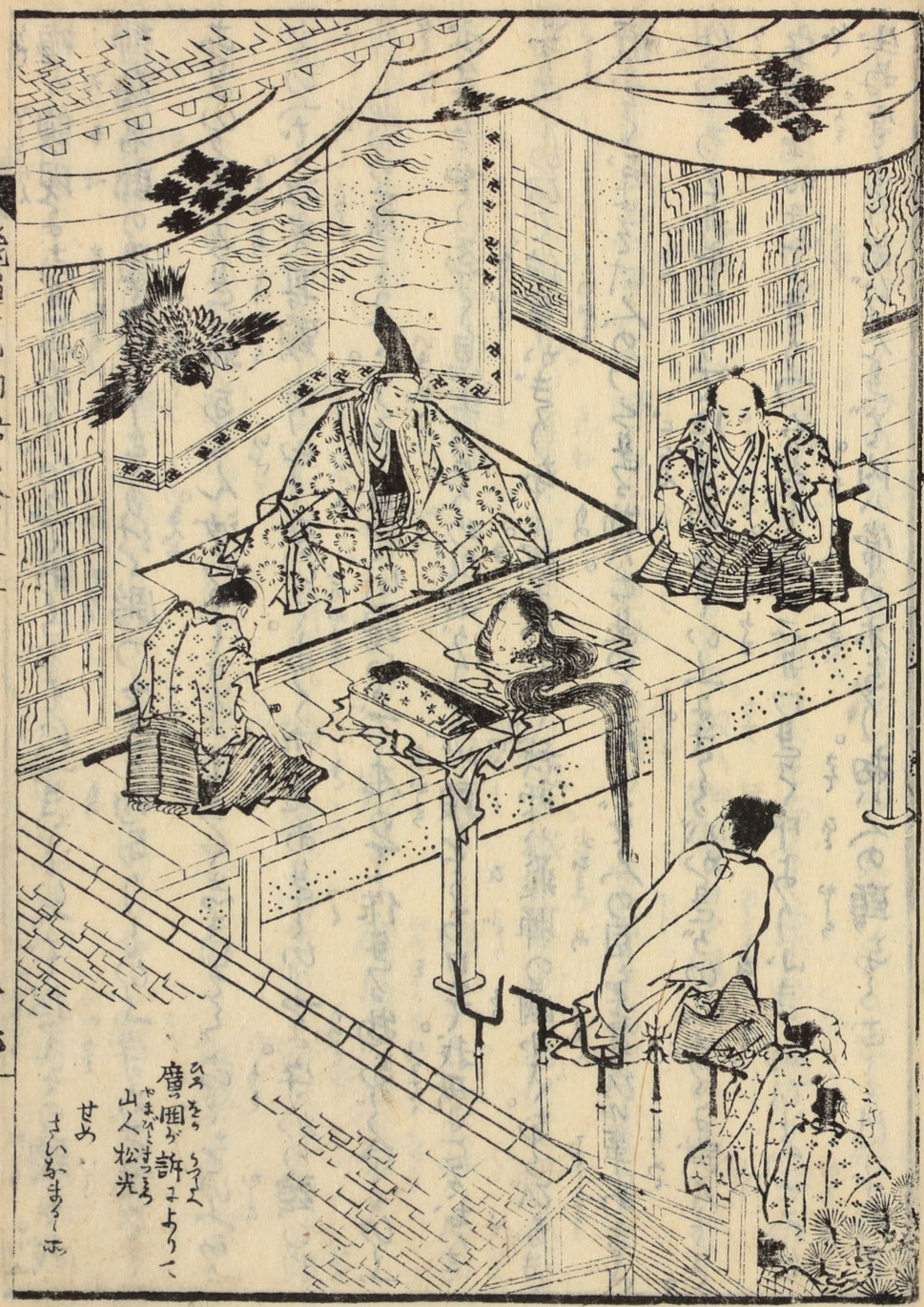

廣國行基の
冊を捕へおき
くるを松光
階子をつくりおきて
おとしゆる時
あやまき
男あり
冊を
負て
立のく

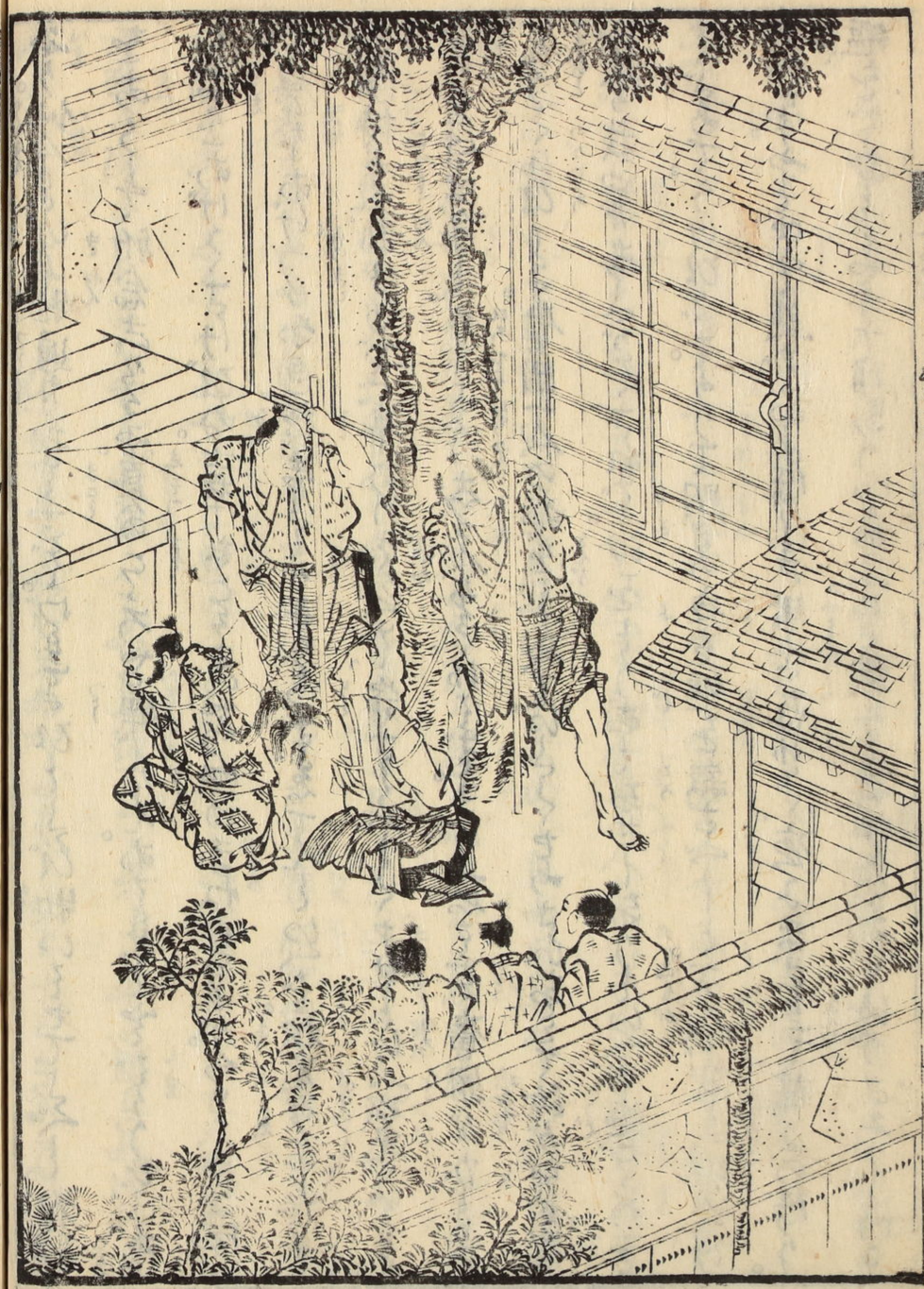


いふ。在原郡は竹芝の山人とやのやうの母は不孝にして、ひろまるを、おとうと母をいとくむちうちて、殺さんとす。母逃出て、おの男の許に行き、母まうくいひをよび人を呼て、おの男、家は忍ぶ所にて、母を殺させていはく。殺しけるやつをかくめ、蓋くれ不。かの者をよめ、山人のいひつけ、まうつるよしをやつまで。くうあげて、後ろつは物をいそぎ。唖のおとさねして、一言のいくこと丹付ぶ所は事おの男ひ乗はあづかる事よりたゆ。どかまぶ母の逃あうくれを殺させつる事、念ゆく、ゆひとくかのあれどもを聽よめさわく、問注してゆちうあんと。由出とやうのぶる、計因代は常に母賣岡は銭をかりて、ちさしき男あり、々男、愁ひゆふ事ちる男、おの男よくむりくひてんとのべ。賣岡ちぶし、かくうひあさせく。おのど盗どうへ久。陸ぬ主ぶしあって守の聽より士卒まりて、松光をひきて、法皇事ゆ。

松光は、ゆ、ちてひろまて、聽のうちは入るよ。おの男ぶかさうくよう。くき少年のうづく陸りゆくう。国の守まづ松光は向ひて、事のよをを問ぬどもいくせざまだ。ちうつ少けるぶとく唖のまねをすると見ることいひて。又少年は向ひて、汝は酒つくあきのをる山人といふ者ちるうと向ひて、少年さんゆとくふ。汝ちきちる男をかくうひて、母を殺さんと。をる逆罪ゆくむぶきゆつあり。とくあくのまうよくせむる。少年涙をあづくてひでさやくのくあくぬるまひ住ぶき母はきのふ思ひよくぶて行方あくありてゆ問ゆくさぶくゆを呂今の俗をつゆりくゆバあちを我母ちけ者の殺したるゆくゆうとくふ守かまぶ殺くうはまのあくうくを見ちゆあくくだ少年涙をあげくゆ位出て守又ひとく汝け男をかくちひくく母を殺さまくくあまだゆ少年ひでさやくのあさ

まゝき事仕り申ん此男ハいまゞ見も きゝねねあゝゝゝゝゝゝゝゝゝ守のゝゝゝく。
汝ゞ志ゝざる男のいゝちるあゝゝあり て母を殺さゞき。志ゝち 汝りいゝゝゝる
ふたがたゞゝゝもるゝ少年稲あゝゝゝゝゝゝゝゝゝ守ゝゝゝて郎當ふ下和ゝく
かゝゝゝを拷木まつちぎてゝてとゝゝゝゝゝゝ郎當二人を引たゝく拷木て
つちぎよせくゝく行ゝのまゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ


鷹の囲が許よりて
山人松光
せめ



嫗が頭現ありしいなでおくがたくみ、きとしのべだ。松光その頭を我
師猪名部の墨縄とやさのけく彫つくるもの有りしとしふ守おぞ笑ひく
ありしいなでつくるる物有るん汝ら〜さるよ。まぐくちきそそくおとをしふあり
としのべだ。松光其頭とり出〜ぬひく。おく市覓ありしとしよ守かの頭しれ
くる器の蓋とりてつくぐ見て汁頭しいなで本のて作る物有るんとしふ
水年ちゆ〜ゆ〜息生るるのびあぐりて汁頭をうち見て我母よこそちさ
有りしとしひて法事かぎりあ〜松光いたくく我師ハ飛騨の國ゆくあるびちき
匠ゆくおよそ汁人のつくるる物ハこれのとあるべ人の目を奪ひ事あまく
ひ。ゆくろ三年おりて法覓ありしとしふまさ〜ばかりをげしふまゆ試んとく
守刀をぬきてきりつくるるで頭ハ二年ワりて中より小き鈴ひとつころげ
出ぬ。守とりあげ入れで内ハ常の木ちり。初ハ人の頭ちるべさはじめく

さとりて墨縄がたくみの奇ある事をゆ感じ〜りさるゆ〜も嫗ら行方
ちゆきれで。汝をたるちゆりがく〜。汝がヤさおく〜ゆ〜ハ廣間めも召捕て
問ひあまく〜むべ〜とらふ水年いひろるる。初ハ和盤ハ墨縄ゆ〜の弟子ゆて
おさ〜ろるゆ。そこの師ある墨縄ゆ〜ハ我ゆ〜母宿りゆひてきのふ〜ふ
母の行方ちべ〜ふ。ゆ〜寄ておさせ〜とのべだ。松光もゆろちびて母君を
おのるたさけちりく。夜のうちゆ。おとく〜第〜せ〜と法るでさて八母の出命
急ちく。おさゆ〜ろとて天を拜〜てよろちぶかるよ廣間ゆ〜て驅まかし
古国るで。寺のいたく。汝が家ゆく汁者が嫗を殺〜つるよ〜汝ら〜人出
くれとそはあ〜ゆ事ちるべ〜とのべだ。廣間ちゆ〜ひとで偽をヤさぐき。
我国の前ゆ。かの者嫗が着きりゆく山人のひつけ母く殺〜たるよし
ヤさくひきとのよ寄さべ汁頭を見よ〜あげゆるで。廣間とりあげく。

打かつ〜見まだ〜本あく作まる物あまだ〜みいふべき詞も生ず〜口ずめ法。
守汝人ずろ〜〜ありといひく許つ〜る。そ〜ず〜ある事ま〜ず〜拙を汝恨を
ひぐまて山人を罪よおとまんとまろ〜たるあ〜んといへだ〜廣岡おのての
色かたろ〜しげ又ひひろ〜〜山頭ハあ〜〜ぬ物あくゆとも嫗をさめ〜ま〜くる
樓の下あくきそつを捕てゆ時より嫗がゆくありゆへだかまず殺し
くるみたがてべ〜〜ふ松光がひたく我何のあさなりく山人ぬ〜の母君
を殺さべき汝こそかの人を殺さんとのひ〜ちゑ〜ざるやとゆへだ廣岡がゆへ
らくかの母ま是をくめこて来るをひ〜ほ〜〜て養ひ是くりつが殺さべき
道理あ〜とあ〜ゆひくくてぞをりか〜一の者ま来く聽の庭を舞
つくりて一鼎の酒をおとこてあ〜ざるよ花ありぬ守汝みをとくせ
てひ〜きま見るより廣岡あをくりあげよとゆひ〜ず士卒ま〜く廣岡ま

縄ゆて〜くりあげつ守のの〜〜く汝のぬる春向ず岡ゆく山人よ狼藉の
ふるまひあ〜今又母を盗く樓よ作ちぎおき今夜かまを殺さんとて下人
ゆいひつけ〜くり事嫗がくつ〜酒こまをまあり。かの嫗汝よいくさいおまれ
て病よ卧をまだ聽よ出る事ありがく〜〜〜

とう。まづ怎ちゝ家よりゆゝしき事をかゝさるよろこびて涙をながして母いとゝくるをつゝまし松光どのよ命たまけらまし塀の外に出さうしよ思よらぬ一人の男あり〻我を負て〻はしりさけて舟心もうせて行しよ叶人いろある心ゆゝしつゝを叶村の口まで負ひ来りさて無くいづちとも去ぬ走りさりぬ叶人のかゝ負来るゝ廣囲よとゝらまして。うきめをみる夜。かゝさぐ百かゝきんも世ふおそるゝ〻ゝて。あく山人いひるゝ母人ろ訴へ夜を書の持来る事守をたゞゆつまくも不審をれどもし語まだ墨縄ついもて甚驚きよひとてかゝより取出るを見まだ木もて作る物あり墨縄がいたくつまこの子畑あり工匠の異どもをつゝぬ叶異を以く物を作まだ我心の欲さるよ従さざるをゆし中異人のたゝくてあひゝわどいまゞまりゐいをを試ざりしゆ。

母君の帰り来かゝるより君の聽よやまさまり事かゝぐ心ゞかりしゆ母君廣囲がたくこの徑ゝく聽ようゝんとのゆゞかく病ゆかゝぬゝだたをづゝ出行ゆそん事かゝゝおのまま又介抱ゝてまゝせざまだ外よあつゝふんもあゝぎよりて母君の飛かきかゝ同ゆ木戈舞ひとつ作りそゝくあゝろこ母飛ゞせ取りたるよ思ひゝまたゞまざかの聽ゆ飛ゆまさてふゝびあゝめふゆり来りしハ是我たくこの奇あるゆゝあゝゞひとよ神人の授ゆひゝ道異の霊ある母よまりと語まゞ老母をまゞあゝゝあゝ感ゞてふゝをゞこつ墨縄松光よ向ひて汝ゞ唖の病ゝこよ愈ゝゝこそうまゝゝまの人ゞ松光拷答よたゆまゝて事を語りゝまゞめ墨縄ゆ別まゝより。徐甲大壺を見ちゞゝてゞひ取ゝんとせゝより。廣囲ゞ家よ取どりゝ事まゝゝまゝゝく語り出ゞまゞ墨縄をはゞめゝゝゆまゝゞあて

松光
ひざの丘
が作りし
木馬に
のりて
おのれば
馬は
ひら〳〵
走られ
おとゝき
恐きて
西く
石後とり
ふみて
大きなる
男出て
馬を
ひきとめ
松光を
救ふ

笑ひをぞ催しける母墨縄をたのみ給ふ事ならひくらひなる八我子いまだ年たゝ幾ばくもなきに親族もなくて便りあくゆゑ此所に身を見しるべきあひて今より行末をうらやみ兄弟なくしてゆくゆくは墨縄がいさゝか見んまゝせんも石臼浅の縁よりゆゑ今よりあとかさなる心あつかさらひやまとゝ〳〵志ゝ〳〵おの是八所を傳てまほひゆゑ何だうの広力あるも成がさかんゝ但今四五日八とゞまりをうてかゝることも見給ふべき一品つゝ生てあゝせんおの是あづまよりゝゝ八故ある事あるゆゑ子細あるゝ口外よ知がゝゝとめゝ松光さゝ生く我師あがく物語あるひそおハ又唖と成あたゝんとゆひて危ゝ墨縄をよりゝ一間ある所より引篭りて何ををろさゝゝん鋸斧の音のゝ少ゝゝゝ三日ゝゝ月よ生まく物ひとつ作りゝゝゝ見あゝゝとゆひく障子おゝあけゝ生ゝゝけ大きくたくまゝきゝ

馬のさあゝゝゆるゝおゝきさゝ多ゝて立あゝゝくゝ見てあざと驚くゝ事かぎりあゝ墨縄ゆひるゝこと是八ゆゝ八ゝ諸葛孔明の作りゆゝる木馬よ習ひくゆさゝゝたくゝを用ひくゆひて庭よおろして行まゝ生る物ゝゆきゝゝたゝゝ松光おゝゝゝゝ事ゝ思ひくおの是かゝゝて無く見んゝゆゝ墨縄おりて。さのゝ月ゝゝ

かけを是ゝ松光馬よまゝかり手綱をとりてあゝまゝ墨縄をゝゝけく。沙手綱をゝよく引事ゝゝ是ゝゝよくひきあゝゝ走る交咲ゝゝゝゝ松光ゝゝゝゝ手綱をとりくゝ門の外へあゝまゝ生くゝゝゝ奥ある事ゝゝまゝゝゝ馬ゝゝ無ゝゝゝゝゝゝゝゝ一町ゝゝゝゝゝゝゝゝ行ゝゝゝゝゝゝゝゝ

飛出し、松光あるやとさけびゐるを。せんかさあく。馬のうびをつまて。
叶馬とめてたづくとさけど。誰かはまつくん。馬ハ風のふくまゝよ。あるんぐ
ゆけと今ゝ目もくらまたゆ。ひも解よそまで。しづ馬のゆくまゝにて。
うつぶし身をつきて。やうくをうくをうくをうくをうくをうくを。
をゝ飛んぐ。北を向てそゝゝと行ゝる

飛弾匠物語巻之二終